

研 究 分 野	増養殖技術	部名	魚類部
研 究 課 題 名	キツネメバル資源増大技術開発事業		
予 算 区 分	県単		
試験研究実施年度・研究期間	H. 1 8 ～ H. 2 1		
担 当	小泉 広明		
協 力 ・ 分 担 関 係	(社) 青森県栽培漁業振興協会、大戸瀬漁協		

〈目的〉

青森県第五次栽培漁業基本計画の対象種でもあるキツネメバルについて、栽培漁業化の可能性を探るために、親魚養成並びに種苗生産の技術開発について検討する。

〈試験研究内容〉

1 親魚養成技術開発

天然で漁獲されたキツネメバル約 170 尾を収集し、親魚候補として周年養成し、その成熟状況について調査した。

2 種苗生産基礎技術開発

天然で成熟した親魚から得られた仔魚 20,000 尾を用いて種苗生産試験を行った。

3 中間育成技術開発

生産した種苗を大戸瀬漁協に搬送し、海上網生簀にて中間育成試験を行った。

4 放流技術開発

大戸瀬漁協で中間育成した稚魚に、一部は標識を装着し、北金ヶ沢前沖に放流した。

〈結果の概要・要約〉

1 親魚養成技術開発

小型水槽に高密度で飼育した場合、交尾、胎内受精が成立せず、未受精卵の排出に終わっていたが、大型水槽に低密度で収容し親魚養成を行った結果、正常な胎内仔魚の発生を確認することが出来た。

2 種苗生産基礎技術開発

天然で成熟した親魚から得られた仔魚 20,000 尾を用い種苗生産を行った結果、平均全長 51.2mm の種苗 8,400 尾（生残率 42.0%）を生産した。

3 中間育成技術開発

大戸瀬漁協にて中間育成を行い、62 日間の飼育で生残率 92.4%と、安定した生残率が得られた。

4 放流技術開発

大戸瀬漁協にて中間育成した稚魚について、平成 18 年 11 月 28 日に 5,722 尾に白アンカータグを装着し、北金ヶ沢前沖に標識放流した。

〈主要成果の具体的なデータ〉

表1 キツネメバル種苗生産結果

産仔月日	収容尾数 (尾)	飼 育			取り揚げ				生残率 (%)
		水温 (℃)	pH	Do (mg/l)	日数	月日	尾数 (尾)	全長 (mm)	
2006/6/19	20,000	14.8 ~23.0	7.83 ~8.21	3.1 ~7.3	101	2006/9/27	8,482	51.2	42.4%

表2 キツネメバル中間育成結果

実施機関	開始月日	収容尾数 (尾)	平均 全長 (mm)	施設種類	規模	終 了 時				
						月 日	尾数 (尾)	平均全長 (mm)	平均体重 (g)	生残率 (%)
大戸瀬漁協	2006/9/27	8,482	51.2	網生簀 (5×5×3m)	1面	2006/11/28	7,836	61.7	4.76	92.4%

表3 キツネメバル標識放流結果

放流月日	総放流尾数 (尾)	内標識魚 (尾)	平均全長 (mm)	放流場所	標識種類
2006/11/28	7,836	5,722	61.7	北金ヶ沢沖 多機能静穏域消波堤付近	白アンカータグ

〈今後の問題点〉

親魚養成技術については、現在、約 170 尾の親魚候補を養成中であり、人工飼育環境下で正常な仔魚を得られる条件について検討を進める。

また、今年度のキツネメバル種苗生産試験では、養成親魚から採仔できず、天然成熟親魚から得られた仔魚の飼育 1 例のみの試験しか実施出来なかった。平成 19 年度には養成中の親魚候補から採仔し、今年度の結果を踏まえ種苗生産技術開発に取り組む。